

光西寺だより 第47号

## 海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「悲しみを転じて生きる」

光西寺副住職 田中 咀釈

三重県の鳥羽に行つたときに味わつたお話でございます。真珠島にいくとそこに陳列館がありました。係りの人がこう説明してくれました。

「天然の真珠は一体どのようにして誕生するのでしょうか。真珠貝と呼ばれる貝(主にアコヤ貝)は普段、砂の中で生息しています。すると、海水と一緒に砂や泥を吸い込みます。そういう異物が入ると貝は嫌がって吐き出そうとします。

たいていの異物は吐き出せるのですが、時々、尖つた石のかけらなどが入ってくるこゝとがあるそうです。貝は痛いので懸命に吐き出そうとするのですが、どうしても吐き出せない時があるそうです。そんな時は致し方ありません。貝はその異物を体の中に保つしかありません。ところが、ここからが真珠貝の素晴らしいところなのです。痛みを耐えながらも、異物によつて内蔵を傷められないよう

にと、体から分泌物を出して、長い年月をかけてその異物を幾重にも幾重にも包み込み、そうして出来上がったのが、あの真珠の珠だそうです。現在行われている真珠の養殖は、この真珠貝の習性を利用して行なわれます。」

この説明を聞いた時、「私たちの人生もこれとよく似ているなあ」と思いました。私たちもこの真珠貝同様、毎日のように心の中に痛みが入ってきます。たいていの痛みは吐き出すことが出来ますが、時にぐさりと胸に突き刺ささつて、吐き出そうにも吐き出せない痛みに出遭うこともあります。そんな時私たちはどうしたらいいのでしょうか。

その時は仕方ないのです。痛みを耐えながらじつと胸の中に包み込む以外、方法はありません。けれども、その痛みを耐えながらも、真珠貝と同じように、その苦しみを尊い宝石の玉に仕上げる道がこの人生に唯一つ開かれています。

それがお念仏のみ教えなのです。お念仏を共に喜ばせて頂きましょう。

称名



※讚仏偈の意味を知ろう

讚仏偈：「無量寿経」上巻に述べ

られる四言八十句の偈頌

親鸞聖人は、数あるお経の中で

『仏説無量寿経』こそが「真実の教」

であると、お示しになりました。

それは、この私の「すくい」が説か

れているから、「真実」であると仰

せになっておられます。

このお経の中にある『讚佛偈』八十

句の偈（讚歌）で、**阿弥陀さまが**

法蔵菩薩であったとき、師仏である

**世自在王仏**のお徳を讃え、「どれほ

どの苦勞があるうとも、すべてのい

のちをすくうことができなければ

決してさとりを開かない」と

という誓いが述べられています。

**法蔵菩薩**が師仏のお徳をほめ讃え

ておられるので『讚佛偈』といい、

「嘆仏偈」とも呼ばれています。



によらいようげん

○如来容顔

如来の御姿

ちようせむりん

○超世無倫

世に並ぶ者なく

しょうがくだいおん

○正覚大音

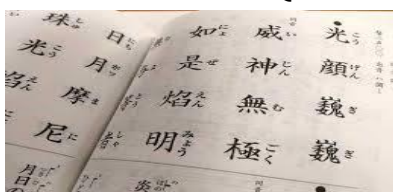
さとりは音として

こうるじっぼう

○響流十方

十方に響き

（続きは次号にて）



浄土真宗本願寺派 讚仏偈

報恩講法要のお知らせ

十月 十二日(土) 一時半〜

十月 十三日(日) 一時半〜

講師 島根県 益田市

本願寺派布教使・善正寺住職

齋藤 友法 師

報恩講

年頭法要のお知らせ

新しい年のはじめに

御本尊に御挨拶を！

◎日時

令和二年一月五日(日)

午後一時三〇分より

\*右記の通り年頭法要がござい  
ます。ご参詣お待ちしております。

ようこそそのお参り  
有難うございました



今年もお盆に献灯の灯で故人様を  
偲び読経させて頂きました。  
大勢の皆様にお参りして頂き、誠に  
有難うございました。  
来年も是非お参り下さいますようお  
待ちいたしております。

### 第3回離郷門信徒の集い 無事終わりました。

このたび第三回離郷門信徒の集いを  
九月十一日に開催いたしました。  
西本願寺・山陰教区教務所・邑智東  
組 各寺院住職・有縁の方が約六十名  
参加。なつかしい故人を偲んでの追悼  
法要。昼食後は聞法のひと時を過ごし、  
ご法縁を深めました。



### 仏婦高野山研修旅行へ

仏婦メンバーや役員など総勢十五名が  
高野山研修旅行へ行つてまいりました。  
高野山といえば弘法大師の開かれた真  
言宗の総本山。ケーブルやバスに乗り高  
野山中心部に到着。奥の院の参道へ。戦  
国武将や江戸時代の大名達の数えきれ  
ないお墓が並びました。金剛峯寺へも参  
拝し有り難い一日を過ごせました。



## 夏休みちびっこツアー

### 本願寺と京都博物館へ

第一回夏休みちびっこツアーを八月五日に開催。急な企画でしたが、小学生四名と西本願寺へ参拝しその後、京都鉄道博物館へ。楽しい一日を過ごしました。西本願寺参拝では国宝飛雲閣・白書院・日本一古い能舞台などを拝見できて子供たちも大変喜んでくれたようです。



## 夏休みちびっこツアーに参加して

栗南小学校六年生 北浦彩香

八月五日に開催されたちびっこツアーに参加してきました。初めに西本願寺の中の白書院に行き、能舞台と国宝飛雲閣を見ってきました。西本願寺の国宝飛雲閣は金閣・銀閣とともに京都三名閣の一つで、そこは普段一般の人は絶対入れないところだったのでとても嬉しかったです。昼食を食べた後、京都鉄道博物館へ行き、そこではボランティアのおじさんが丁寧に案内してくれたのでとても分かりやすかったです。

中でも蒸気機関車の説明でC六二のCは大きな車輪が三つ、D五一のDは大きな車輪が四つの意味があるのを教えていただきとても勉強になりました。楽しい一日を過ごすことができて良かったです。また来年も参加したいです。



## 法話と茶話会の開催日

令和元年 副住職法話

十二月 八日(金)午後二時

### 西本願寺常例布教へ

副住職が九月七日から四日間、西本願寺でご法話をさせて頂きました。朝昼晩と十二席のご法縁ということもあり最後まで無事終わるか不安でございましたが、なんとかお役目を果たしました。特に、朝六時からの御晨朝はご門主様のご出座ということもあり数百名が参詣されておられました。張りつめた緊張感の中でのご法話は良い経験になりました。無事終わりホッとしております。

